

「親組合との強い信頼関係あってこそその青年部」

山口県瓦工事業協同組合青年部 部長 松井 勝

松井: 山口県瓦工事業協同組合部長をしています松井と申します。よろしくお願いします。

瓦工の業界団体の青年部組織として全国瓦工事業連盟青年部がありまして、当青年部はその山口県支部という役割も持っています。また、山口県瓦工事業協同組合の当組合青年部の位置づけとしては組合内に組織する指導委員会、技術委員会などと同じ位置づけで活動しています。

活動報告並びに活動方針について説明させていただきますが2004年2月に全国瓦工事業連盟（以下、全瓦連）の青年部総会があります。全瓦連青年部発足20年ということで、20年の記念式典も同時にありますのでそちらにも参加致します。総会が済みましたら、6月に全国部長会議というのがございまして、その中で一年間の活動方針というのを決めていきます。全国の活動方針が決まると西日本ブロック（中国、四国、九州で組織）共通のテーマを決め9月の西日本ブロック会議の時にそのテーマに基づいて、ディスカッションしていきます。山口県は、平成15年に担当県になりまして、岩国市で青年部第12回西日本ブロック会議を開催させていただきました。その時のテーマは、『足元を見つめ直し自分たちのグラウンドを固めていこう!』ということでした。

他県では、青年部と親組合とのつながりが余りないということで、青年部が独自で活動しているよう思われがちです。全瓦連でも青年部の活動を知らないという方が結構多く見られます。ですから、全国の集まりに行っても、青年部が勝手に活動しているのだろうということで、どこの組合も同じだと思いますが、青年部の方が理解を得るのに苦労されていると思います。そこで、青年部のやることを親組合が理解してくれないということで、その事についていろいろディスカッションしてきました。ディスカッションの内容を踏まえて山口県で意見をまとめ親組合を通じて全瓦連の全体会で伝えていただきました。その時の提案内容が2つございますのでご紹介させていただきます。

- (1) 我々を取り巻く非常に厳しい環境で、しかも刻一刻と急激な変動をしている現状の中、頭の固い従来のしきたりや慣習をかたくなに守る年寄りが主導権を握っているのではなく、その中に若い力を、若い血を注入しなければ、業界の発展、活性化は望めないし、異業種からも認めてもらうわけにはいかないと思います。やはり、若い柔軟な頭脳の持ち主による発想の転換、または新しい指針を掲げ、行動によるリーダーシップを取り入れる若い力を重用していかないと業界全体の活性化は望めないと思います。

(2) 青年部は、5年、10年、20年後の瓦工事業の業界を担っていく人たちが構成されています。そもそも若い時から、いち早く相互の親睦を深め、かつ広く横の連携を求めることが、よりよい業界づくり、ひいては、よりよい全瓦連を構築することになるということでございましょうが、立ち上げより早18年、今年で20年ですけど、その数も全国に約700名と聞いております。普段の中で私が青年部活動に立ち会うにつけ思いますのに、この700名の世帯は単なる仲良しサークルにとどまってはおりません。例えば、中長期的にポイントを置き、そのための今日どう過ごすか、あるいは消費者の瓦離れをどう防ぐか、そして、どう生き残るか。そのためには非組合員に、どう差別化を図るのか。しかも単に勢いや掛け声だけではなく、実際にどう現実のものとするか非常に真剣に、熱い思いで熱い議論を交わしております。このことは、親組合にとっても頼もしく、また、喜ばしいことと思います。しかも、彼らも、あらゆる結果において全瓦連をアピールし、どう前面に打ち出すかがベースになっております。行き着くところ、指導委員会というのではなく、加盟4,200にその思いを届けてこそ全国に初めて伝わるというものです。

こういうことを現理事長より提案していただきまして、山口県では親組合の方で青年部委員会というのを設けてもらっていますが、全国の各県青年部も親組合の一角として参画させてもらう活動を全国展開しております。

それから、技能フェアというのを毎年開催しています。これは親組合から、青年部でやってみないかという話があり、青年部としても是非やりたいということで実施させていただいております。2004年10月に山口市の維新公園で実施致しました。これは、瓦の架台という屋根の形をした模型をつくって、そこに屋根を実際に葺いて、実際に青年部のメンバーが瓦を葺く姿を見ていただきました。その時に組合・組合員をアピールということで、“瓦のご用命は山口県瓦工事業協同組合加盟店に”というリーフレットで積極的にアピールさせていただきました。「では、どこに頼めばいいの?」ということをよく聞かれますので、来訪者に「どちらから来られましたか?」と訪ねて、下関の方でしたら「下関地区の組合員はこちらの方ですので、仕事の方はよろしくお願いします」ということで該当地区の組合員名簿を配布しました。

話は変わりますが2月に技能検定という技能士の検定試験がありますが、これも青年部のメンバーが検定の補佐員として、受験者をチェックして検定員を補佐するという形で実施しております。

あと組合では、2月を陳情活動強化月間としているのですが、この期間中に親組合と青年部が一緒になって、公共建築物への瓦の採用の陳情書と瓦屋根工事技士の資格者活用の要請をしています。これは、屋根に瓦を使っていたきたいということで陳情書を持って各市町村の役所を回ろうということです。岩国市においても、岩国市役所や和木町役場など回るようにしています。

それから、皆さんご存知ないでしょうが、8月8日が『屋根の記念日』ということで記念日協会に申請を行い登録されております。ホームページを開いてもらって、“屋根の記念日”で検索してもらおうと出てきます。

これは、全国統一で8月8日に一斉に屋根の記念日ということで、屋根のPRと組合員の仕事をいろいろな形でPRさせていただいています。

同じく組合、業界のPRということで、瓦屋根診断技士、一級技能士瓦屋根工事技士と雨漏り修繕無料点検、屋根のリフォームの幟旗を作って組合員に仕事をということで活動しています。

最後に、青年部は親組合の理解がないと活動も難しいと思います。全瓦連の中でも山口県はモデル県として、青年部と親組合の信頼関係を礎にしっかり活動していきたいと思えます。本日は、どうもありがとうございました。